ヤスクニ通信 No.240 2019年12月20日
発行 靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」） 代表・西川重則 TEL/FAX 042-574-9210
事務局 西東京市柳沢2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付 HP http://yasukuninotsudoi.christian.jp/
例会 毎月第3金曜日 7:00～9:00pm（祝日の場合第4金曜日）
会場 たんぽぽ舎 TEL 03-3238-9035 FAX 03-3238-0797

ヤスクニ・レポ 240

日本国平和憲法を活かそう

医師・中村哲氏銃撃死の衝撃

集い参加者 荻野廣己

1

12月4日、医師・中村哲（てつ）氏が銃撃された。35年に亘り、アフガニスタンとパキスタンにおいて医療活動に身を投じてきた方だが、ペシャワール会なるNGOを漠然と遠く眺めて尊敬していた程度の認識であった私は、「日本キリス教海外医療協力会」なる母体が存在していることを今知ったと、ここに書くことを大いに恥じ入る。パキスタンを往来するようになったのが1978年からというから42間の活動となる。しかも、私と同じ73歳というから親近感を持って驚くにはあまりにも遅すぎる。彼らの活動は、薬より食料を求めて灌漑事業に目覚しい展開を示してきたことが、ことにアフガニスタンは高く評価していることが示された。氏本人がブルトザーを運転している映像も見た。国民にとって食糧危機を脱する恩人であり、「英雄」とさえ大統領が称するに、それほど危険な情勢の只中にある人々からは、これに値する多岐にわたる活動を率いてきたことの総称としても言い及ばない表現なのであろう。

銃撃による中村氏の死去は、私にとっては日本国の平和憲法の神通力が侵食されてきたことを象徴する衝撃であった。初めての犠牲者ではないということではあるが、中近東諸国と国際交流するにあたって、武装は必要ではなく、丸腰の作業服で日々の協力できるはずの根拠は憲法前文が標榜する「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を得たいと思ふ。」との国是である。「思ふ」
のは国民の私たちである。この趣旨での「名誉ある地位を得たいと思はない」のは現行安倍内閣であり、自虐史観を唱える勢力が崇高な国是を内部から侵食してきている。

「鉄」を比喩したい。頑強な鉄は大気で錆び付く。

大気の酸素、水分で酸化鉄になるがこれが錆だ。建築家である私が知識を絞り出してもせいぜいこれくらいで頼りないもので、少し細かくは水酸化鉄（Ⅱ）とか（Ⅲ）など、そこからが深く広いので、もはやそれ以上は語れないが、赤錆状態は表面から鉄鋼を侵すもので、案外スピードが早いから、錆止めを塗りペンキを重ねて大気と触れないように保護する。これに対して異金属相互から生じるマイナスイオンが反応すると、鉄の内部から針を刺すように鉄に深穴を開けて内側から崩壊させる事態もある。私達の日本国憲法を鉄とすれば、公布後７０年も経てば相当に表面錆も進んで、赤錆層を重ねた危険状態に入るが、マイナスイオンとは戦争法案とわれわれが略称するところの通称「平和安全法制整備法」と同じく「国際平和支援法」で共に2015年9月30日に夜を通して強行最決された法案である。

2

そもそもは2001年9月11日のニューヨークにおける同時多発テロの直後の米国はタリバンとアルカイーダへの復習心に燃えていて、アミテージ国務長官がテロに関する日本の対米支援を打診して柳井俊二駐米大使に“show the frag”と語ったと、ベーカー駐日米国大使が10月5日の日本記者クラブで報告したことが報道で大きく増幅して、それで一気に自衛隊のイラク派兵が決まったが、 極め付けはポピュリズム首相の始まり小泉純一郎首相が答弁するに「自衛隊がいるところが非戦闘地域である」と

真面目な討議を萎えさせる検証性を欠いた国会討議となっていく。中村哲氏が国会に参考人として呼ばれ、自衛派遣について考えを求められた時「百害あって一利なし」と答弁したら国会議席から「非国民！」と罵声が掛ったという。現実を語ろうとしているのに、それを遮り、武力を派遣し続けて軍事力で国際紛争を片付けようとする鼻息の荒い勢力が多い。そして 2015 年の安倍内閣においては海外にいる日本人家族を救助するために、必要なところに自衛隊を派遣し武器使用も認めるとの、たとえ話を根拠に、法案が可決された。平和憲法のもとで平和を作り出そうとする思考は足踏みし、攻撃力によって国益を守るという最も安易な手段に頼るということで、忍耐深く思考し、討議するという姿勢が薄らいできている。日本人だから安全だという安心感があったという。武器に拠ったり、財政上の威圧によるものでなく、平和を基調として戦争をしない国としての、経済協力、医療援助、教育やインフラ整備に尽くしてきた成果であるという。「憲法ゆえに日本人は安全」との神通力は残存しているか。しかしこの戦争法案も結局は深夜に至って討議を打切り強行採決された。「戦争は国会から始まる」と国会傍聴を続ける西川重則長老の警告に、これらを顧みるに深く頷く。

このおりのエピソードがある。国が大きく変わっていく場面を傍聴していた西川氏はこの日が水曜日であったので、一旦、新宿の教会に帰り、祈祷会にて祈ってから再び深夜の国会傍聴席にてこの歴史上重要な目撃者となったことは、信教の自由を守る生き方としての大きなお手本であり、証である。

3

2019 年のアドベントを迎えていて、次の聖日はクリスマスだ。大きくなれない教会だが、教会学校を続けていて、子供も少ないので継続しての劇の練習はできない代わりに、名作絵本を使って、パワーポイントで絵を大きく写しながら、朗読劇風にするのも心地よく気に入っている。ちゃんとシナリオも作成する。場面に応じて音も拾って流したり、ピアノ、オルガンも引いてもらうから、演出効果は十分だ。

さて、アドベント第１週であったか、「ザカリアの賛歌」を子供達と学んだ。もともと子を産めないエリサベツが老人になってから子を宿し、普通の月数で男の子を産んだという。１０ヶ月を黙していたザカリヤは自分のこの子がいと高き者、キリストを予言する役割であることを知る。そのいと高き者は「暗黒と死の陰とに住む者を照らし、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう。」と結ぶ。成長したイエス・キリストは民衆に向かい、今日の私達にも「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」とメッセージなさる。ザカリヤが願った平和は人類の希求である。私たちの国は未曾有の犠牲と膨大な破壊を代償として日本国憲法を得た。平和を作るための理念であり、道具である。中村哲氏も私も生まれた 1946 年に現憲法は公布された。協調の実績を彼は遺した。日本国憲法を活かさなければならない。

２０１９年１１月１５日例会奨励「御名が聖であれ」
マタイ５：１６　須田毅牧師　(JECA 西堀キリスト福音教会)

「御名が崇められますように」は直訳すると「お名前が聖くされるように」である。神の名とは、その御存在そのものである。それは人間の力で聖くなるわけではない。それではなぜ主イエスはこのように祈れとお命じになったのだろうか。

ハイデルベルク信仰問答 Q122 では主の祈りの当該部分について、まずは「私たちが神を正しく知り、賛美できるように」という祈りだと説明する。人間がまず、神を知らなければならないし、以後も知り続けなければならない。それによって、私たちは神の聖さにならい、みことばに聞いていき聖なる神を感謝をもって賛美し続けていく。

その後半では「私たちの生活を通して、御名が汚されるのでなく、むしろ崇められ賛美されるように」という意味だとする。キリスト者の生活によって、神が崇められるのである。キリスト者のひとつの性質は自分の光栄を求めないで、神の栄光が明らかになる事を願う。主イエスの恵みによる罪の赦しの恵みが私の中心にあるがゆえに、神を崇める。人間はキリスト抜きに生きることができないことを、もっと明瞭に証ししたい、それによって人間が神的になることやそれが日本社会で当然とするかのような動きに、信仰者として明瞭な態度を示したい。